



アクテノン

NO. 64

名古屋市演劇練習館機関紙

エッセイ

■ 「見せる」



早いもので、舞台照明を生業としてあっという間に40数年の年月がたってしまいました。始めた頃はスポットや色の種類も少なく、しかし器材の重量は今のスポットと、比べものにならないくらい重く、女性にとっては厳しい労働条件でした。しかし入社した頃の若尾綜合舞台研究所は、当時、社長夫人の若尾隆子さんが、戦前東京宝塚劇場で照明のスポットの操作をされていたこともあって、全国的に見ても珍しい女性が多い職場でした。

照明の仕事は色々なポジションがあり、当時は女性はセンタースポットを操作することがほとんどでした。私が、舞台照明のデザインを始めた頃は、日本でも女性のデザイナーは数が少なく、名古屋では初めてでした。当時アメリカの舞台照明で、女性が活躍しているのを視察してきた方が、舞台照明のデザインは女性に適していると思われるので、名古屋で私がデザインをするきっかけになりました。

60才を過ぎた今でも、仕事をしていますが、肉体的にも、精神的にも厳しい、この仕事を続けられる魅力はなんだろうと最近よく考えるようになりました。

御原 祥子 (ライティングデザイナー)

単純に言ってしまえば、舞台で行われる演劇、舞踊、オペラ等々を見せるということにつきますが、私たちの舞台照明の仕事は画家が絵を描いたり、作曲家が作曲するように、一人で出来るものではありません。

「何をみせるの」と問うときに、それぞれの演出家、振付家、美術家の考える多種多様の価値観、美観と対峙していくときの出会いの面白さ、それによって私自身も知らない事、興味のわく事に出会って、また一つ違う見方が出来ることでしょうか。

それと自分の思いどおりには行かないけれど、個性的な名人たちの多い集団の中で、一つの作品を作る面白さも魅力です。

舞台照明も一般社会と同じように、コンピューターも取り入れられ、どんどんデジタル化されてきています。しかし人と人が作品をとおして出会い、感じるのが舞台芸術です。

表現する事は、表現する技術が違うだけで、同じような気がします。

人の息遣いや、心を大切に、アナログでもう少しだけ舞台にかかわっていただけるかなと思っています。



「雪女」
'06年3月5日
パティオ池鯉鮒花しょうぶホールにて

トピックス

■ アクテノン・フェスティバルが定着してきた舞台裏には・・・



寺原 幸 (舞踊家 ミユキダンスアフィ代表 アクテノン・フェスティバルプロジェクトチーム実行委員長)

アクテノン・フェスティバルは、毎年、初秋の頃、アクテノンの野外劇場において、アクテノンを利用する団体が中心となり、音楽や舞踊などの芸術を楽しむ「お祭り事」として、にぎにぎしく開催されています。今年は、2日間共お天気にも恵まれ、多くのお客様に楽しんで頂けたと、感じています。

このフェスティバルが、毎年開催出来る舞台裏には、多くの方々のご支援、協力無しでは実現出来ません。

主催でも有り、裏方全般を引き受けて下さっている、財団法人名古屋市文化振興事業団。主に、アクテノンの職員さんが、出演団体を集い、本番までに必要な資料を作成し、会議のたびに用意を下さるなどの、愛の有るお仕事をして下さっています。今年は初の試みで、アクテノン・コラボレーション・アンサンブル(A・E・C)と言う、朗読・ダンス・現代音楽が一体となった作品を、発表させて頂きました。朗読は毎年の進行役でもある、劇団・夏

蝶の江崎順子さん。ダンスは私が蝶の化身役をさせて頂き、音楽は名古屋市立大学の学生さんGOEMONこと赤池征範さんのPCで作る、幻想的な音楽で行われました。その作品で、使用された大道具(壊れかけた門)を、職員の服部さんが、心をこめて作って下さいました。野外ならではの自然を感じながら、リアリティーの有る舞台が出来た事を、本当に感謝しています。

それに、中村地区で出来ている、中村アクターズタウン実行委員会、区役所まちづくり推進室の職員さん、ボランティアさん、出演団体、お客様、ありがとうございます。今後もアクテノン・フェスティバルが皆様に愛される、息の長い行事として定着させたいと願っています。

来年も又、新しい団体の参加を楽しみに、参加者全員で盛り上げ、いつも新鮮な気持ちで、アクテノン・フェスティバルの実行委員長を勤めさせて頂きたいです。



アクテノン・フェスティバル
「アクテノン・コラボレーション・アンサンブル」
'09年10月11日
アクテノン野外劇場にて

アクテノン・シャワー

■ アクテノン シニア演劇部発表会「いっぽんのキ」

作:北村 想 潤色・演出:佃 典彦
6月から始まったシニア(50代~60代)のための演劇教室「アクテノン シニア演劇部」発表会が開催されます。現代劇の役者体験は、ほぼ初めての受講生たちが、名古屋を代表する劇団B級遊撃隊の佃 典彦氏の演出で、北村 想氏の作品に挑戦します。7か月間毎週練習した受講生たちの成果を、是非、客席から応援してください。



シニア演劇部の皆さん

日 時: 12月11日(金) 19:00開演
12日(土) 14:00開演
会 場: 名古屋市中村文化小劇場
(中村公園文化プラザ3階)
入 場 料: 800円(日時指定・全自由席)
お問い合わせ: 名古屋市演劇練習館 アクテノン
TEL 052-413-6631
FAX 052-413-6632

■ 舞台音響のワークショップを開催します。

この講座では、音響機器の基礎知識から、小劇場クラスでの仕込み・本番・バラシを想定しての実践を学びます。「音」を操ることで、観客の感性に訴え、強い印象を与えることができます。興味がある方は是非ご参加ください。お待ちしております。

開 催 日: 平成22年1月9日(土)~10日(日)
講 師: 粕谷 卓司(演劇襲団 海賊船Ⅱ代表)
受 講 料: 2,000円
受付開始日: 平成21年11月25日(水)
※なお、定員になり次第締め切らせていただきます。
お問い合わせは、演劇練習館(TEL)052-413-6631まで。

アクテノン利用団体紹介

①発足年 ②団員数 ③主な上演作品/会場(上演年) ④連絡先

演劇 さみしんぼ王国



さみしんぼ王国は、愉快ツカイな藤子アニメ系ナンセンス演劇を信条に、演劇のプロデュースを行っている集団です。1995年~1999年に3回の公演を行い、名古屋の演劇界において「他に類を見ない作風」との評判を多数頂きました。その後10年間の活動休止期間を経て、09年11月に初めての日本の時代劇風の作品「名古屋春風伝」を引っさげて、ついに復活の狼煙を上げるに至りました！この機関紙アクテノンを発行日直後に見られた方はラッキーです！11/28、29に七ツ寺共同スタジオでお待ちしています！

①1995年 ②1名
③ニセドラゴンボールクエスト/七ツ寺共同スタジオ('95) タコはタコなりに頑張ってます/七ツ寺共同スタジオ('97) 葎少年漂流記/七ツ寺共同スタジオ('99)
④くずやかつち
☎090-1471-9077
<http://www.dorakuou.com/kingdom/>

アクテノンに一言 なんとと言っても、頼りがいのある丈夫な建物！そして曲線的な柔らかな雰囲気の実習室！母の胎内に抱かれているような、そんな居心地のよさに、ついつい長居をしてしまいそうになる素敵な場所です。

演劇 miu



今年の2月に結成したばかりのユニットです。10月に初めての公演を行った際にはたくさんの方に支えられて成功させることができました。今後も公演ごとにメンバーを募り、また新たな気持ちで様々な作品をお届けしたいと思っています。そしてmiuに関わってくれた方々に感謝し、miuの作品を観に来てくれたお客様に楽しんでいただけるよう、これからも頑張っていきたいと思ひます。

①2009年 ②2名
③ケセラセラ~しょうがないじゃん毎日締め切りなんだもん~/翔upファクトリー('09)
④<http://miunomori.web.fc2.com>
E-mail: miunoyume@yahoo.co.jp

アクテノンに一言 いつも無理ばかり言ってすみません。親切に対応していただきありがとうございます。

公演のご案内

★アクテノンの利用団体の公演をご案内します。 ①会場 ②日時 ③料金 ④問合せ先

総合学園ヒューマンアカデミー名古屋校 パフォーミングアーツカレッジ3期生卒業公演 1組『主人公の行方』2組『白い十一人の女』	① 中村文化小劇場 ② 12月19日(土) 6:00 (1組・2組)、20日(日) 2:00 (2組・1組) ③ 1,000円(前売・当日共通) ※チケット1枚で同日両クラスとも見られます。 ④ ☎052-561-2378 (川崎) 2年間の集大成！豪華劇作家達の新作が見られるのはヒューマンだけ！
劇団サラダ 第18回公演 『ハルシオン・デイズ』	① G/pit (ジービット) 地下鉄伏見駅6番出口より徒歩10分 ② 12月18日(金) 7:00、12月19日(土) 2:00 7:00、12月20日(日) 12:00 5:00 ③ 前売 2,000円 当日 2,300円 ④ ☎080-1611-3928 (玉腰) HP/gekidan.salada.ne.jp ティナ棚橋率いる劇団サラダが、鴻上尚史の「ハルシオン・デイズ」に挑む！
劇団すこん部 旗揚げ公演 『おとしだま』	① 名古屋市青少年交流プラザ(ユースクエア) ② 1月9日(土) 3:00 7:00、1月10日(日) 1:00 5:00 ③ 1,000円(前売り、当日共通) 公演協力費として ④ ☎080-5169-0830 (榊原) 皆さんのお年玉で見に来て下さいね。
緑文化小劇場施設事業 劇団うりんこ 『ヘンテコ長屋の赤おにドン平』	① 名古屋市緑文化小劇場 ② 平成22年1月23日(土) 11:00開演 ③ 大人 1,000円、子ども 800円(3歳以上中学生以下) ④ 名古屋市緑文化小劇場 ☎052-879-6006 ヘンテコ長屋にすむトン平という泣き虫な男の子のものがたり。



編集発行/平成21年11月25日(年4回)
(財)名古屋市文化振興事業団 名古屋市演劇練習館(アクテノン)
〒453-0841 名古屋市中村区稲葉地町1-47
TEL 052-413-6631 FAX 052-413-6632
※この印刷物は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

